

Q9 今回の地震、停電により問題となったことと、その解決方法

(1)	問題	解決方法	市の考え
(8)	・特に重要な課題、その中でも電気の止まることがこれ程とは今まであまり考えられていないように思う。停電は、情報も停止することを知った。		(情報発信及び伝達)
(8)	・市広報車のスピーカーが聞こえづらかった。	・停車かゆっくり走行	・広報車について
(8)	・広報車での聞こえないので、ゆっくり走ってほしかった。		ゆっくり走るように指示を出していましたが、情報を早く伝えなければならぬという思いから、速度がだんだん早くなっていったと思われ、今後については、一定の場所に止まってアナウンスをするなど工夫してまいります。
(8)	・広報車での伝達ですが。	・車の速度をもうすこしおとし、スピーカーの音量も上げてほしい。	
		・広報車による周知	
		・広報車の進行は、直進方向が聞こえることから、極力まっすぐ長く前進しなければならないことが常識になっています。そして、スピードに気をつけることです。	
(8)	・広報車の伝達悪し	・広報車はゆっくり、はっきり	・情報発信について 市役所庁舎が停電により、電話、インターネット、パソコンが使えなくなったことから、情報発信が広報車のみとなってしまった。今後は、非常用発電機を整備し、ホームページや39メール、ツイッター、ラインによる情報発信を行います。
(8)	・屋内では、スピーカーの音が届かないことが多い。ましてや、窓が閉めている時はなおさらでしょうか。		
		・広報伝達の広報車が、もっといい音に聞き取りやすくしてほしい。	
(8)	・今回の災害連絡網が広報車だけだと思いますが、密閉式住宅のわからなかった家が多い。電話情報も市より6時間後	・広報車の増車と走行をゆっくり、各町内会の連絡網の整備、臨時電話機の増設(日頃より準備)	
(8)	・聴き取れない	・広報車の音が聞きづらかったので、出来るだけ聞きとりやすいように。	
(8)	・広報車	・広報車情報伝達、所々車止めて話すと良い。流れで話すと何かと思い聞こうとしたら、車は過ぎて何を話したかわからなかった。	
		・広報車は1台で回ったのですか？野花南地区は回りませんでした。	
(8)	・広報車の音が小さく、内容は近所の方に教えてもらいました。ラジオをつけ、地震の状況を知りました。		
(8)	・市の広報車が通ったが、走るスピードが速すぎて、何を言っているのかわからなかった。	・ゆっくり走るか、止まってくれると良いのでは・・・	
(8)	・広報車はもう少しゆっくりと通ってほしい。何を放送しているのかと知っているうちに行ってしまう。	・問題の地域では車を止める等、ゆっくり広報してほしい。	
(8)	・広報車	・広報車	
(8)	・情報不足	・広報車を音量をあげて走らす。	
(8)	・早く正しい情報がほしい。		
(8)	・現状の実態、実情を伝達されない。	・芦別の面積が広く、全市民に情報伝達しようとする意図は理解できるが、広報車のスピードをもっと遅くし、内容を聞き取れる様に	
(8)	・停電がいつ回復するのかの情報		
(8)	・テレビが見れないので、情報が入ってこない。	・町内会からでも情報がほしかったです。	
(8)	・1人暮らしの人は、停電でテレビも見れない、ラジオも持っていないことがある。	・ラジオのニュースを知らせました。	
(8)	・テレビが映らないので、ラジオ・携帯電話などない家庭はどこから情報を得たらよいか不安だったと思う。	・電池式のラジオの常備、その他情報を得るための手段がわかるようなルート説明が必要かと。	
(8)	・震災後の各個人が冷静な行動をとるには、被害状況・電気・水道などの復旧の時期など、正確な情報の影響に尽きると思います。あくまでも司令塔は市、そのために必要な準備が必要です。(誤った情報の危険性)		

	問題	解決方法	市の考え
(8)	・停電で市役所、北電への電話が繋がらず、状況が解らない人が地域にいました。道路を隔てた町内の住人が携帯で連絡するも繋がらず停電の状況もわからず大変困惑していました。	・市役所に非常時に使える自家発電機を用意する。今回停電時連絡用の2回線の電話は良いと思います。今回の地震をふまえ、各町内会長の携帯番号を町内会事務局が取りまとめて市役所へ提出していると思うので利用して連絡をお願いしたい。	
(1)	・ラジオ以外の情報は何もなく、スマホもすぐ使えなくなった。		
(8)	・地震に気付かず(主に老人、軽い認知)、停電がどうしてなのかわからない人がいた。	・同居者がいない人は、地域の見守り(ご近所とか)大事	
(1)	・市役所の電話が通じない。	・新聞で見たのですが、北海道の自治体(市・町・村)で自家発電装置が無い所が芦別ともう一ヶ所の二ヶ所だけとか？他の予算を削ってでも備えるべきでは？せめて各課に昔のアナログ電話を付けても通話は可能と思います。	(通信手段の途絶) 非常用発電機により対応する。
(1)	・外線電話(22-2194)つながらない他、市役所への内線も不通となった。	・市役所からの情報は、総務課の掲示板で収集する。	携帯電話の予備バッテリーについては、普段から用意をしてもらうように周知をまいります。
(1)	・電話が使えない。		
(1)	・黒電話		
(1)	・停電により、電話を使用することが出来ず困りました。		
(1)	・固定電話につながらない	・連絡先まで車で行った。携帯のLINEを利用	
(1)	・防災メールを登録しているので、利用しやすいが、やはり、停電時は場所によっては、スマホが利用できない。	・市の車での広報が効果的だと思う。もっと工夫して。	
(1)	・携帯電話の充電ができないため、離れた家族などと連絡を取ることが出来なかった。携帯の電波がなくなり、圏外になったので通電するまで使えず困った。		
(1)	・停電により固定電話がつながらなかった。	・停電時の外線電話は、福祉センター(22-8860)の利用を周知する。	
(8)	・テレビなどで断水の情報が流れた為、身内などからTELが入り、各家庭、企業など水集めたと思います。停電は、情報は流れましたが、断水については全く入って来ませんでした。テレビで断水と言っているのに停電断水の情報は詳しく流してほしい。		(デマ情報の拡散)
(8)	・ある町内会では、水道が止まるかも知れないので、ため水をするよう班長が各家を回ったと聞きました。		本来は、市ホームページ、39メールで、対応することとなるが、市庁舎が停電であったため、広報車で回ることしかできなかった。今後は、ツイッター、ラインでの情報発信に加え、町内会長さんと連絡が取れるよう携帯電話の番号等も備えていきます。
(8)	・嘘情報が流れる前に、的確な情報が知りたい。	・大きな音声で、広報車がお知らせの事が大切に思います。	
(8)	・あしべつ防災メールで知り、SNSで友達へ情報伝達した。	・広報車にて一回でなく、何回か廻ってほしい。	(情報の共有)
(8)	・電話は使用できなかったが、携帯電話は使用できたことから、携帯電話のインターネットやラジオ等で情報収集、又、SNSにて外部の者との情報共有も行うことができた。		市庁舎が停電であったため、広報車で回ることしかできなかった。今後は、ツイッター、ラインでの情報発信に加え、町内会長さんと連絡が取れるよう携帯電話の番号等も備えていきます。
(8)	・職員間での情報の共有	・ホワイトボードを活用した。	
(4)	・携帯ラジオはありましたが、電池の予備がなかった。	・電池は、単1、単2、単3等準備が必要	(備蓄品の準備)
(4)	・職員の携帯端末の充電体制の確保。発電機やモバイルバッテリー等を整備する必要あり。		災害時に備え、まず、自助が必要なことから、3日分の食糧のほか、必要なものを持ち出し品として各自が備えておく必要があるため、市HPなどで、改めて周知をまいります。
(4)	・ラジオと懐中電灯、電池が必要。	・直接、訪問に行くしかなかった。	
(8)	・中央町内会自主防災組織が作られています。		(自主防災組織の活用) 災害時、自助で対応できないことは共助となることから、地域での助け合いが必要で、防災に対しては各町内会で、自主防災組織を立ち上げていただくよう周知をまいります。

	(2) 問題	解決方法	市の考え
(4)	・個人的には3日程度は物も心も準備しているが、大きな地震の場合は相当混乱すると思う。	・生活物資の備蓄が一番安心があるが、それが無事であるか否か	(備蓄品の準備)
(4)	・水、米、麺類、冷凍食品等		災害が発生した場合、救援物資が届くまでの間(3日から1週間)自分自身で、食料の確保をする必要があることから、各個人において最低3日の備蓄をお願いしているところです。今後においても周知を徹底していきたいと思います。
(4)	・飲食業なので缶詰はありましたが、非常食の為の物はなし。	・非常食として、副食物の缶詰くらいは3~4個は必要	
(4)	・防災用品不足	・防災非常用品購入	
(4)	・これで良いとはならないか(自分なりに出来る事はして居ます)		
(4)		・2日~3日くらいの飲み水と食料は備蓄の必要はあると思います。	
(4)	・困らない程度に用意している。		
(4)	・停電が長くなると、スーパー、コンビニ等に人の列ができ、パン、牛乳、食料品が無くなる。	・自分は2~3日分食料品は確保している。	
(4)	・電池、単1	・他のがまんした。	
(4)		・改めて必要だと感じました。	
(4)		・食料、生活用品等は備蓄あり	
(4)	・インスタント食品と冷凍物がありましたので、安心していましたが、停電が長くなるとのことで、インスタント食品を買い足しました。		
(4)	・電池が古くて使用できず。	・購入のため、お店に4時間程並び購入できなかった。	
(4)	・今回は水とガスが使用できましたが、日頃から用意しておくべきだと思いました。		
(4)		・(準備)ヘルメット、軍手、ビニール袋、マスク、懐中電灯、ラジオ、スリッパ、カンズメ、飲料水、カセットボンベ、カセットコンロ、電池	
(4)	・日頃より、3日間ぐらいの備蓄を用意している。		
(4)		・備蓄が必要と思った。	
(4)	・当日、お店で何時間も並ぶのは大変なので、日頃備蓄	・日頃から冷凍食品、乾物、又は介護、(おむつ)赤ちゃんのミルクなど	
(4)		・懐中電灯、小型ラジオ	
(4)	・携帯電話の充電器。携帯電話は、情報収集や連絡手段の生命線。(充電切れかかった)	・乾電池式充電器の備えが必要。	
(4)		・懐中電灯、小型ラジオ	
(4)	・オール電化だったのでガスが使えず、カセットコンロもなかったので友人に借りた。	・停電後しばらく店舗にも在庫がなく、入荷後すぐに購入。その他、電池や懐中電灯や食料品なども備蓄用に購入	
(4)	・頼城の避難所には備蓄品が置いてなく、市役所の職員が持って来た食品等で避難者の食事をする事が出来たが、他の避難所はどうなのか。	・備蓄品(食品等)を指定避難所に置いてはどうか。	(市の備蓄状況周知の不備)
(4)	・どこの避難所に何があるのか不明	・災害時対応として、年1回ぐらい避難所に合せて、広報紙等で知らせる方法は	市の備蓄については、必要最低限のものしか備蓄することができないため、市民全員分を備えることはできません。3日から1週間程度は各個人において備蓄をしていただく必要がありますが、今回のブラックアウトの経験により、現在よりも備蓄品を増やしていきたいと考えています。
(4)	・どの程度備品数が保管されているのか、わかっていません。		
(4)	・市民がどれだけの備品がどこにあるか、理解してないと思う。	・市の広報紙等に一定期間載せて欲しい。	
(4)	・町内で備蓄品があるのか、ないのか?		(町内会における備蓄品の準備)
(4)	・町内では?自分では、食料、ガス		庁内での備蓄があることはいいことですが、まず、自分自身の分を備蓄することが大切であるため、市においても周知をしますが、各町内においても周知していただけると助かります。
(4)	・町内としては備蓄品はありません。炊事の設備はあります。		
(4)	・町内会、又それぞれで防災グッズ等を用意する。		

	問 題	解決方法	市の考え
(4)	・冬季は暖房設備について検討する必要あり。また、ガソリンなど自動車の燃料の確保についても検討の必要あり。		(施設等における備蓄品の準備)
(4)	・施設内の備蓄品は、入所者優先であることから、居宅利用者までの備蓄品を使用する事になると、不足することが予想される。		避難所用の備蓄を行っていますが、状況によっては、貸出できるものがあることも考えられるため、まずは、各施設で用意をしていただくことが前提ですが、市にご連絡ください。
(4)	・携帯電話充電用のコンセントが不足していたので、電源タップが必要		
(4)	・停電時の情報ツールとして、携帯ラジオ・テレビが必要		
(4)	・電池やラジオがなかった。	・買いためを進めていきます。	
(4)	・電池が売切れ		
(4)	・直後のスタンド、コンビニ、ホームセンターへの爆買いへの予防	・日常の災害への備えについての意識啓蒙	(被災後の防災・生活用品の不足)(防災意識の不足)
(4)	・自然災害(地震)の少ない地域の人々の意識の薄さ。	・機会あるたびにしっかりと繰り返す。	日頃から備蓄をしてもらうよう定期的に周知をまいります。

	問題	解決方法	市の考え
(3)	・全戸に伝わっていないと思う。	・常に伝えておく必要であると思う。	(避難所の周知不足) 数年前に土砂災害時における避難場所や避難ルートについて記載した、カラー版の防災ガイドブックを全戸配布しているほか、市ホームページに掲載しています。今後においても周知をしていきたいと考えます。
(3)	・どこに避難していいか、わかりません。	・場所を知っている人が少なかった。	
(3)	・避難所がわからない方も多く、どの程度で利用できるのかわからず、行けない方もいる。	・避難所の場所の再確認も含めて「芦別市災害対策保存版」のような物を各家庭に配布するのがよいのでは(備蓄品や冬季の対策法も含めて)	
(3)	・本町地区生活館		(避難所) 避難所については、各地区にあります。実際に開設する場合については、市で開設するほか、町内会で開設する場合があります。今回の地震により非常用の電源(発電機)やストーブの備蓄を考えているところです。
(3)	・芦別市民会館 or 芦別市民総合福祉センター		
(3)	・町内会館		
(3)	・福祉センター、青年センター		
(3)	・本町生活館になっている。		
(3)	・福祉センター、青年センター		
(3)	・本町生活館になっている。		
(3)	・芦別小学校		(避難所の収容能力) 避難をする場合、一時的に近くの避難所に避難する場合がありますが、被害の状況に応じ、大きな避難所を開設し、バスで移動してもらうことがあるかもしれません。たくさんの方が避難することは今まで経験がないところですが、各町内会の方や、ボランティア等の協力をいただきながら、避難所の運営をしていければと考えています。
(3)	・集会所(溪水町)、星槎国際高校の2カ所がありますが、高齢の方が多く入りきれないと思っています。		
(3)	・被災当日、何百人も集中すると対応できるのか。	・町内の連携が必要	
(3)	・頼城多目的センターに避難者来た場合、何人位の方が入るのか問題		
(3)	・被災当日、何百人も集中すると対応できるのか。	・町内の連携が必要	
(3)	・現在は、居宅利用者の受け持ち件数は少ないが、今後、利用者数が増え、全員の避難が必要となった場合、全員を受け入れるのは厳しい可能性がある。		(避難所の老朽化及び耐久性) 避難所については、すべての災害に対応しているところと、災害の種類によっては使えない避難所が存在し、以前配布した防災ガイドブックや市ホームページに掲載していますが、あらためて周知をしたいと思います。
(3)	・町内会館がありますが、老朽化で避難することすら危険である。		
(3)	・有り	・避難所が古くて、自宅に居た方が安全	
(3)	・ある程度は認識しているが、災害時における耐久性(地震、水)、町内会ごとの避難所が不明確	・耐久性には、早急な対応を願い、町内会ごとの避難所を明確にすると抄訳しやすい。	
(3)	・芦別は災害が少ないので安心して暮らしていましたが、災害事の際になりましたら、避難所も心配です。		(避難所の設備) 発電機など必要なものをそろえていきたいと考えています。
(3)	・夏場はよいが、体育館など、センターに発電機があったら良いのでは。		
(3)	・地域によっては、停電の中での避難所生活をしていただけのでは？	・自家発電のある避難所の必要性がある為、市の建物の一部を発電機の設置を	
(3)	・館内の自家発電が稼働したが、非常灯と消火栓しか対応しておらず、揚水ポンプに通電していないため、断水がなくても、停電による館内の断水が想定される。また、家庭用電源も取れないため、避難所としての対策が必要。	・避難所に発電機が必要と思った。 ・自家発電の揚水ポンプへの配電、家庭用電源の設置	
(3)	・今回は、あまり希望者がいなかった。	・ベット(簡易)がないと、高齢者は大変です。	

	問 題	解決方法	市の考え
(3) (8)	・今回、新城には避難所は開設されなかったが、開設された場合、そのことを町内全域に周知する方法があるのか	・広報車を走らせても、雨や風の音で屋内では聞こえない時もある。班で連絡網とか、電話が使えない場合も考えて近所に知らせに行く範囲などをあらかじめ決めておく。	(避難所開設の周知)
(3) (8)	・避難所開設の広報車が回っていたが、よく聞かないとわかりづらかった。プリントも配られていたが、夜間だったので見たのは次の日の朝だった。	・昼間のうちにプリントを配ってくれていれば、もう少し避難所を利用する人がいたと思います。	避難所開設の周知については、町内会長に連絡をしたほか広報車による周知を行ったところですが、なかなか聞き取れないといった話を聞いており、一定の場所に泊まってアナウンスするなど工夫してまいります。
(3) (8)	・広報等、お知らせはあるが知らない人もいる。	・町内会で声を掛け合う。	
(3) (8)	・停電の場合、避難について何も知らない。	・くり返し、知らせる。	
(3) (8)	・今回、福祉センターでは、上芦別の人達は遠すぎます。	・足の悪い人でも歩いて行ける所	
(3) (3)	・どうして行ったらいいのか、車なしでわからない？		(避難所への移動) 避難所への避難について、開設場所を記載しましたが、今回停電により各家庭での電話が使用できないことから、連絡の方法がないのご指摘もいただいています。今後については、例えば、班長や区長や町内会長さんに連絡をしていただき、そこから市に連絡をいただくといったような連絡体制を考えたいと思います。
(3)	・高齢者は行くのに大変ではないでしょうか？食事は・・夜は・・色々心配です。	・季節にもよりますが、近くの公園(双葉公園)(ちびっこ公園)	
(3)	・西芦は近くにないので、別の場所へと言っていました。西芦は、土砂くずれの危険性のある所も近いです。もし、そこが崩れて通れなくなった時はどうするのか？		
(14)	・市職員と住民との連携	・住民側のコーディネーター役の人材育成	(官民相互の連携) 防災マスターの育成など今後の課題と考えています。また、災害時のボランティア活動をされている方も市内にいることから、このような方の力を借りながら、いろいろな仕組みを作りたいと考えています。
(3)	・福祉避難所としての受入体制を整えていた。		(その他)

(4)	問 題	解決方法	市の考え	
(14)	安否確認について		(通信手段の途絶)	
(14)	・電話が不通なので、停電時は出来ない。		安否確認については、今後も課題が残るところです。実際に安否確認をするためには安否確認をする方の家がわからなければ、代わりに行くこともできないことから、今後町内会や関係者と一緒にどのような方法がいいのか検討したいと考えています。	
(14)	・インターホーンがあっても停電のときはならない為、安否確認に手間取る。	・余裕があれば、電池使用の物が良い。		
(14)	・電話で確認する。不通のときは訪問する。			
(14)	・有り	・出来る限り各自で携帯電話の充電設備を準備する。		
(14)	・携帯電話の充電が切れかかった。			
(14)	・今回は独居だけ昼頃訪問するも、ブラックアウトで”ピンポーン”はダメでした。			
(14)		・急にはできないので、日頃から気を付けなければならないと思った。		
(14)	・自分のことで精一杯という人が多いのでは？	・民生委員として個別訪問したが、ドアにカギをかけている人もかなりいた。		
(14)	・連絡がつかない。	・LINEの利用		
(14)	・固定電話が使用できないために、安否確認に時間がかかった。	・訪問して安否確認を行った。		
(14)	・電話が通じなく、直接安否確認を行わなければならなかった。			
(14)	・電話がない人もいる。	・電話が通じなかった。訪問しました。(手分けして)		
(14)	・固定電話が使用できなかったため、町内会長、民生委員への連絡が行き届かなかった。	・非常時の連絡用として、町内会長、民生委員等に携帯番号の聞き取りを行っている。		
(14)	・高齢化(地域の)が進み、確認をする立場の人達も体力的に無理となって来ている。			(安否確認体制)
(14)	・迅速な対応	・各町内会ごとに3人組、5人組または町内会内の連絡網の整備促進	上記に同じ。	
(14)		・町内会役員等による確認しかない。		
(14)	・高齢化な社会、地域においてたいへんになってくると思う。	・3, 4棟のつながりを密に声かけをしていくグループもだいじかなと思います。		
(14)	・町内会の会長及び役員、在宅福祉の関係者、民生委員等が問題のある家庭に連絡(電話)したり、訪問する。			
(14)		・家族や親せきと取り合う。		
(14)	・1人での対応はかぎりがあり、連携が必要です。			
(14)		・うけ持ちを決めておき、何けんかで連絡をとりあう。		
(14)	・訪問する当事者も被災している時は、むずかしい。	・近所どうしの声かけ		
(14)	・町内会などを利用した連絡網の整備 負傷者多数の場合、どう対応するのか。			
(14)	・従業員が個別にお客様の安否確認を行った。			
(14)		・DS、CMスタッフが全利用者の自室を訪問し、全員の安否確認を行った。		
(14)	・一人暮らし・高齢者家族・障がい者家族の安否確認が必要、連絡方法 避難する場合の移動・場所の確保・家族の連絡などあります。	・発生当時、1人暮らし、高齢者夫婦世帯を町内の婦人役員と安否確認に歩きました。		(安否確認対象者)
(14)	・近所の1人暮らしの安否の確認が必要かと思う。			上記に同じ。

	問 題	解決方法	市の考え
(14)	・高齢者の方々は、電気来るのが遅かったので、不安がっていた。	・今回は、上声でも隣が点いているのに、自分の家は来てなく、まばらになって点いているのが不安でした。	(安否確認時の高齢者等への配慮・ケア)
(14)	・私も安否確認に行きました。ラジオが無く、情報が入ってこない高齢者もいました。	・廻りの元気な人達にたのみたいです。声を掛けていただきたい。	上記に同じ。
(14)	・自分の担当地区の高齢者、障がい者の方を訪問したが、特に困ったこともなく、数時間で正常に戻りましたが、夜間の場合や冬期間など不安なことが多い。		
(14)	・東町町内会は今回、民生委員、町内会役員が戸別訪問で安否確認をしたが、他の町内会では動きが遅いとの話が出ていた。後日、民生委員として声かけ安否確認時に話をされる。		(安否確認の未実施)
(14)	・震度4だけど、グラグラが短いので、確認までの意志がなかった。		上記に同じ。
		・私の場合は、当日神社の祭事の方へ出向いていましたが、民生委員としては、活動しなければならなかったと反省しています。	

(5)	問 題	解決方法	市の考え
(13)	・最大の関心事。対応に苦慮する。		(全 般)
(13)	・冬時期の停電は、生死にかかわる事がある。		避難所用に備蓄をする必要もあるが、市ですべての方の毛布をそろえることはできないことから、災害時の原則にもあるように、まずは各個人において、普段から毛布を準備しておくなど必要であることから、周知を図ってまいります。
(13)	・今後、話し合いが必要		
(13)	・雪が問題があります。		
(13)	・有り	・出来る限り各自で(カセットボンベのストーブ)または(ポータブル石油ストーブ)を準備。最近の石油ストーブは、停電は使用できません	(暖房・採暖、特に停電時のこれらに対する処置)
(13)	・電源がないと暖房が困難	・反射式石油ストーブ購入	移動可能な発電機や、ストーブの備蓄が必要であると考えております。
(13)	・停電が冬の場合は、暖房、ストーブ等の用意が不可欠となる。水の問題、どう対応するか。	・暖房・ポット式ストーブの設置	
(13)	・停電時でも使える暖房器具が必要。		
(13)	・ポータブルストーブ		
(13)	・暖房がストップする。	・カセットガス使用のストーブ、ファンヒーターの備えが必要	
(13)	・暖の確保が一番心配です。今は、電化の時代、電気がなければ食もままならないかと思えます。		
(13)	・ストーブを使用する時期なので、不安です。		
(13)		・電気が使用出来ないので、ポータブルストーブ等電気なしでとれる暖房	
(13)	・暖房が使えなくなること	・電気を使わないポータブルストーブをおく	
(13)	・暖房です。		
(13)	・冬は一番にストーブ		
(13)	・ポータブルストーブ、カートリッジガスコンロ等	・買って装置	
(13)		・暖房、特にポータブルストーブは必要、さっそく購入した。	
(13)	・暖房器具が少ない(石油ストーブ等)		
(13)	・一番は暖房だと思います。水、明かり。現代はほとんど電気時代で、停電によりパニック状態になります。	・ポータブルストーブ(灯油)、懐中電灯、水、乾電池、ラジオ、ガスコンロ(ガスボンベ)など普段から準備しておくことが必要。	
(13)	・暖房が使えないのは、かなり困ります。	・電気を使わないストーブを購入しました。	
(13)	・停電の場合、ストーブが使えない。	・乾電池で点くポータブル石油ストーブの準備	
(13)	・寒さ対策	・電気を使わない暖房を用意する。	
(13)	・暖房と照明と水	・ポータブルストーブ(ガス、灯油)、懐中電灯を複数用意、風呂水を取っておく、ペットボトルで飲料水を確保(60ℓくらい)	
(13)	・ストーブがつかないので、困ります。(今回は、9月ですのでよかったです)	・ポータブル石油ストーブが必要だと思います。	
(13)	・停電時、ストーブも使われなくなると、寒さに向かって不安になる。		
(13)	・真冬の震災は命の危険性があります。	・電力の使わない暖房器が必要(凍らない水)	
(13)	・寒さ対策は必要だと思います。	・カイロ、コート、毛布類	
(13)	・停電すると暖房が停止	・薪を使っている実家に避難	
(13)	・マイナス気温の中で生活できない！！食品等の確保	・ポータブルストーブ等の備蓄や、市内の食品店への緊急時の対策検討	
(13)	・寒い時期は特にストーブなどの暖房器具が心配。毛布などの厚手の物が常備されているかどうか？(各家庭で)	・ポット式(灯油)ストーブや、今はカセットガス式のストーブもあるのでそれも知ってもら。短時間なら車のある方は、車内での暖はとれるが長時間は無理	
(13)	・ポータブルストーブなどの暖房のかくほ		
(13)	・ポータブルの石油ストーブ暖房器は必須だと思う。		
(13)		・電気を使わないストーブを準備	

	問 題	解決方法	市の考え
(13)	・デイカフェすまいるには、電池式の灯油ストーブを1台設置済み。		
		・自家発電機はあるが、ボイラーを稼働させる容量がないので、電池式のストーブを備える。	
(13)	・冬期間の停電の場合は、暖をとるための避難者が多く出るとされる。	・燃料(灯油、軽油、ガソリン)の備蓄、電気を使わない暖房機器の整備	
(13)	・暖房の問題	・電源のいないストーブが必要	
(13)	・停電時に、電気を利用した暖房が使えないと思うので対策をお願いしたい。毛布等の配置もお願いしたい。	・電気を利用しない暖房器具、毛布等を配置していただきたい。	
(13)	・避難所(町内会館)ストーブの電源	・発電機等の配置	
(13)	・避難時、積雪に対する交通、医療、暖房網整備		
(13)	・真冬の暖房がとれない(停電)	・市が準備してほしい。	
(13)	・避難所、暖房、寝具(毛布等)	・対策本部の活動	
(13)	・今回は、短時間で電気が来たのでよかったが、冬なら暖房が一番生命にかかわると思う。	・避難所に電気を使わない暖房器具を用意する。発電機をそなえる。	
(13)	・除雪されていなければ、避難に時間がかかる。	・除雪・排雪は早めにする事	(避難経路・通路等の確保)
(13)	・雪・除雪・防寒	・避難経路の除雪	冬期間の災害における体制については、市内関係機関はもとより、空知振興局管内でも連携体制を作っていますが、災害の状況によってはすぐに出動できないことも考えられるため、各個人や家庭においても安否確認や避難できる体制を整えるようにしてください。
(13)	・大雪の場合の通路の確保が問題です。		
(13)	・これから雪が積もるので、停電になると困ります。	・足の不自由な高齢者の方々が、安心して避難できるような場所がほしい。近いところに	
		・避難所通路 雪の処理	
(13)	・多目的センターになっているが、奥に有る体育館が物でいっぱいになっているが、避難所に使えるんですか？暖房がいかされていない？		(避難所の現状)
(13)	・今回は、ドアが開かなくてもベランダや窓から声をかけることが出来たが、冬期は雪の問題があり、声もかけられない場合が多いと思う。	・「何かあったらドア(玄関)は開ける」ことを徹底したい。	(安否確認要領)
(13)	・近所の高齢の老人宅への安否確認が必要と思う。		(4)に同じ
(13)	・高齢化で何をするにも人手がなく、暖房の問題、食品の備蓄など輸送の問題もあります。	・常日頃、町内で話し合い、連絡網をきちんとしておく。常に、町内の協力で助け合いの精神で皆が無事におられることです。	(高齢化に伴う対応)
(13)	・今回、北海道全体で見た場合、3~4日停電している地域もあったことから、冬期間の停電の場合、早い段階で避難の呼びかけを行わなければと感じた。		(早期避難情報の発令)
(13)	・降雪期では、避難困難者が多く出るとされるので、救援体制の整備が必要	・安否確認・救援体制の整備	(救援体制の確立)

	問 題	解決方法	市の考え
(1)	・停電による情報伝達の遮断が大変に感じた。		(情報発信及び伝達)
(8)			
(1)	・有り	・たまたま娘が札幌から来ていたのですが、帰りのJR、中央バスの運行状況がわからず、3日間家に居ました。	(1)に同じ。
(8)			
(1)	・北電の情報、状況がわからないことから、判断、対処に困った。		
(8)			
(1)	・情報が入ってこないこと。伝達方法がないこと。		
(8)			
(1)	・我が家の地域が一番遅く電気が使えるようになったのですが、他の地域の情報がなかったため、停電解消している地域の人に頼ることが出来なかった。	・もう少しマメに通電情報を教えてほしい。	
(8)			
(1)	・停電になっている時間がはっきりしなくて困りました。		
(8)			
(1)	・情報が無		
(8)			
(1)	・市の情報が遅い。	・広報車ははっきり、ゆっくり知らせて下さい。	
(8)			
(1)	・情報の確認業務	・市・行政は、広報車や町内会役員、民生児童委員等の連絡体系を確立して、安否確認業務を早期に実施できる体制を	
(8)			
(1)		・今回の地震発生時は、市外におりましたので、発生時の本市の対応については、わからないというが正直なところです。 私の住む東頼城地区は、当日の午後には停電も復旧しましたので、特別不便は感じませんでした。ただ、今回の停電で電力の重要性を改めて痛感致しました。情報を得ようにも、テレビ等のツールは使えないので、私が最初に情報をもらったのは、千葉に住む友人からの電話でした。そこで、得た情報を家族にも伝え、とりあえず対応をいたしました。 今回の地震での一番の苦労は、やはりこの情報をいかにして収集して伝達するかということです。限られた電力、ガソリン等を心配しながら、正確な情報を得るのは、非常に困難です。 日頃から、地域のコミュニティーを大切にして、互いに情報を伝達(学校の連絡網のようなもの)できれば、多少、不安は解消されると思いました。とにかく、日頃から、万一の際の備えをするよう周知していくのが最重要だと考えております。	
(8)			
(1)	・お客様へ正確な情報を提供することが出来なかった。		
(8)			
(1)	・断水の情報が流れ、水を貯めた人が多くいた為水の無駄	・市で早い情報を知らせて欲しい。	(デマ情報の拡散)
(8)			
(1)	・断水の情報が流れ、短時間での水の確保に苦労しました。		(1)に同じ。
(8)			
(1)		・断水する噂が流れ、お風呂に水を入れたり、水洗トイレの水を準備する。	
(8)			
(1)	・SNSによるデマ情報(断水)が流れて混乱した。	・迅速な情報収集と正確な情報発信	
(8)			

	問 題	解決方法	市の考え
(14)	・冷蔵冷凍庫、ストーブ等電気使用の物は全て駄目		(停電に対する対応) 携帯電話も非常用バッテリーの常備、懐中電灯の常備など普段から備蓄品を整備しておくことが大切だと考えられることから、同様の内容であっても一定周期での周知が必要であると考えます。
(14)	・停電時間が余りにも長かった。		
(14)	・大型冷蔵庫使用により、保られている鮮度が、そこなわれた。	・エンジン発電機による発電	
(14)	・停電が長かったこと。		
(14)	・停電、断水		
(14)		・停電が長く続いた事	
(14)	・停電時が一番困り、何も出来ずに手探りで行動した事が大変でした。	・懐中電灯、電池等を常備する。	
(14)	・酪農家なので、搾乳などの仕事ができなかったこと。	・発電機を自分で用意できればよいが、個人で持っていない時、持っている人、事業所など登録しておき、非常時に借り入れるようにする。	
(14)	・今回の停電は、新城地区では8時間程度でしたから、他の地域に比べてラッキーだったと思います。 冬期間だとあらゆることを想定して対策を考えなければなりません。今回の停電が、もし、1月2月だったとしたら、影響は数倍になっていたでしょう。危機管理は様々な想定をしなければなりません、今回は新城での停電だけを考えます。	・備蓄は水から医薬品、電池までいろんなものを考えてそれぞれの家庭がやっていると思います。必要なものは本やネットで調べることが出来ます。発電機は、できるだけ多くの家庭で持つべきです。どのくらい能力が必要か、実際の停電でどのように使うのか訓練が必要なので、市が率先して講習会などを開くべきです。本などの情報では、二の足を踏む家庭が多いと思います。 100%の人が100%の対策をするのは不可能です。しかし少しでも対策をする人が増えれば、いざという時に行政の負担は大きく減らすことができます。配給に並ぶ人が減ります。避難所を必要とする人が減ります。手助けが可能な人が増えます。 今回酪農家が数戸、発電機を発注しました。まだ納品は先のことですが、何かのときに他の方にも役に立てていただけたらと思います。	
(14)	・停電が長いので、冷蔵庫の物が心配	・普段ペットボトルに水を凍らせて置く事がいいと思う。	
(14)	・玄関が開かなかったこと。停電でチャイムが鳴らなかったこと。自分も水道とか情報がなかったこと。	・緊急時にどうするか、色々な場面を想定して勉強会等必要と思う。	
(14)	・家庭用品は、ほとんど電気なので何もできない。		
(14)	・電気の停電で、不自由をした事です。		
(14)	・外に出ると、信号がダメでしたのでこまりました。	・警察の方が、交通整理していたのでよかったです。	
(14)	・2日間の夜間の暗らさに精神的にダメージを受けた。		
(14)	・ブラックアウトに対する対応が必要である。		
(14)	・家の近所で電気付いて、自分のところいつまでも暗くて心細くなりました。フロに入りたかったです。		
(14)	・かざぐるまは、オール電化のため、調理に苦勞。ライト、灯りがないと不安である。	・ポータブルコンロを備えていたので使用。本体から食事を運搬。ランタン・懐中電灯の購入>	
(14)	・冷蔵庫の中が心配だった。	・買い物に行っても、品物がない。	
(14)	・電話が、固定もスマホもつながらなかった事		
(14)	・スマホ、ケータイ充電場所の確保	・シガーライター用の充電ケーブルを日常車に常備してもらう。 ・発電機を使用した充電ポイントを市内各所に用意してもらう。	
(14)	・今回は、地域により停電も比較的早いところと遅いところありましたが、難しいと思いますが、ライフラインだけの普及は早めをお願いしたいです。		

	問 題	解決方法	市の考え
(14)	・電話が通じない(2件だけ通じた)ので、安否確認に困った。 自分の家は、水は備蓄していたのですが、ない家も多く2件の方にあげた。		(安否確認)
(14)	・実母が溪水町(独居、団地)に居ますが、安否確認も含め訪問できたが	・日々、お隣さんとの交流のつながりも、娘の私自身、親交を深め、仲良くさせて戴く必要性の重要性を感じる事が出来た。	(4)に同じ。
(14)	・独居高齢安否確認訪問活動で問題無く	・インターホンが停電で、戸を叩き、窓を叩き、少々苦戦	
(14)	・電話が通じなく直接の安否確認を行った。今回は、問題はなかったが、交通が遮断されてしまった場合、安否確認が難しくなると感じた。		
(14)	・懐中電灯等の電池の品切れが長く続いた事		(防災用品・生活用品の不足)
(14)		・今回この地区の停電は短かったのですが、懐中電灯はあったのですが、乾電池の買い置きがなかったので、準備しておきました。	
(14)		・キッチンが電化なのでコンロを使ったが、ガスボンベが手に入りづらかった。	
(14)	・車がある家はまだ動ける可能性もありますが、公共交通機関にたよっている方は、その際どうしたらよいのか？		(避難困難者への対処) 自分で移動できない方は、地域で助け合う共助によると思いますが、それでも難しい方は、一定の場所に集まっていただきバスで移動する等の方法も考えられることから、町内会との連携を作っていきたいと考えております。
(14)		・Q9すべて。他の団体との日頃の連携が必要と強く感じました。	(関係機関・団体等との連携)
(14)		・想定を超える災害は「あり得る」。「市の広報車の声が聞こえない。何やってんだ」等との声も耳にするが、私は「論外だ」と思う。それぞれが懸命になっているからだ。他者の対応を避難したり、全てを他人(ひと)のせいにするのではなく、自分たちでできる事を決め、住民自らが行動できる様にしておく事が肝要	(防災意識の高揚) 今回の地震を機に、より町内での連携、町内会と市の連携を図ることができるきっかけになればと思います。市だけでも、町内会だけでもできないことがあり、連携を図ることでカバーできることがまだまだあると考えられることから、いろんな意見をいただき、互いに考えていければと思います。
(4)	・いかに急な災害のための準備がなされていないかが、自分の家庭を見てよくわかった。普段から少しずつでも防災グッズを揃えて災害に備えなければならぬ	・それぞれの家庭において、もしもの災害に備えて、もう少し色々な事を知ってもらう必要があると思う。(災害が少ない芦別だからこそ)	
(4)	・避難所の設置にあたり、福祉センターの設備、利用方法、貸出物品等の市職員からの問い合わせが多くあった。	・避難所設置について、市と社協の役割分担、情報共有	(関係機関の情報共有) 役割分担ということもありますが、それぞれがどのタイミングで何をするといいようなタイムラインの作成が必要だと考えていますので、ご協力をお願いします。
(4)		・発電機があるので。特に困らなかつた。	(問題点等なし)
(4)	・今回は、市役所総務部より早い時間に連絡が入り、避難所立上げも早く、高齢者の多い町内会、地域でもあるので大変感謝しています。避難された方々より感謝の言葉がありました。		(その他)